

今年から始まる！
年に一度の一大イベント

まことのことば 人の間違いや欠点を厳しく見る眼で自分が見えたらいいですね（野田風雪）

公開学習会のご案内

昨年に引き続き四月から真宗寺・畠山先生にご出向頂き、一人でも多くの方々（御門徒、各御寺院）と共に学びを深め、聴聞していただくという願いのもと公開学習会を開講します。参加条件等は一切ありませんので、是非この機縁にご参加下さい。

期日 平成三十一年度

（年に九回、毎月一日固定）
（一月、八月、十一月は休みです）

時間 夜七時～八時三十分頃終了予定

場所 旭川別院広間

講師 畠山明光師（北海道湧別町・真宗寺）

● 学習会内容 歎異抄

● 後、懇親会（自由参加）

八時四十分頃から十時三十分まで

● 会費（聴講）五〇〇円

※途中からの参加も可です。



「初心のつどい」の御案内

三十年度初心のつどいは、本年三月を持ちまして閉講いたします。引き続き、平成三十一年度は四月より翌年三月まで左記の日程で開講いたします。身近な仏事・お勤め等に関心のある方の参加をお待ちしています。

記

日・時 毎月十三日 午後一時～三時

内容 （一月・六月・八月・十一月は休み）
お勤めの練習・お内仏のお給仕・お釈迦様、親鸞様の教え等・質疑応答

持ち物 念珠・勤行本（貸し出し可）

会員制でありませんのでどなたでも参加下さい。（会費無料）

＊継続される方も大歓迎です。

＊参加申し込みは、後日別紙にて御案内いたします。

別院子ども会

旭川別院では、年6回子ども会をしています。普段お寺は暗く静かなイメージかもしれませんが、開催すると大きな境内が子供達の笑顔で溢れかえります！夏には果物狩りに東旭川の農園へ行くこともあります！日帰りだけでなく、お寺でお泊まり会もしちゃいます。列座スタッフ、子供達のパワーに押されそうになりますが、全力で皆と笑顔で取り組んでいます！

- 4月：新一年生 子ども会
- 6月：果物狩り(予定)
- 7月：夏のお泊まり会
- 9月：子ども会 報恩講
- 12月：冬のお泊まり会
- 3月：春のお泊まり会

興味のある方はお気軽に参加してみてください！



永代経法要のご案内

「永代経」とは、永代にわたって、読経を通して仏さまの言葉（教え）にふれ、私に先立って人生を歩み、人生を終えていかれた大切な方々の「死」をご縁にして、仏さまの教えに身を据えて、私を学ばせていただく仏事です。永代経法要は、「私に、人として生きるとはどういうことを教えて下さる仏さま」と遇わせていただく尊いご縁です。是非、お参り下さい。

日時 七月一日～七月十日
午後一時～二時半

在家報恩講のご案内

○期間六月一日～三十日まで（日時につきましては、事前に郵便にてご連絡させていただきます）

- お荘厳（おかざりするもの）
・お華束（ただの白いお餅）
・打敷（三角の金襴の布）
・朱ローソク（赤ローソク）

※この在家報恩講中の月命日のお参りはお休みとさせていただきます。
・六月にご法事等を予定のご門徒さんは、五月十五日までに別院にご連絡の上、ご調整願います。

旭川別院大谷婦人会 総会のお知らせ

日時 四月十八日(木)
午後一時～三時
内容 総会
場所 大谷ホール1階
*飲み物・おやつ用意します。

婦人会一泊研修

（帯広別院御遠忌法要参詣）

日時 六月二十九日・三十日

※詳細は五月十八日の例会で報告します。



東京大学名誉教授

養老孟司

私とお寺さん①

鎌倉生まれで、鎌倉育ち、いまでも鎌倉に住んでいる。だからお寺さんは親しい存在である。

と言っても、お寺にお坊さんのお説教を聞きに行く、という習慣はない。鎌倉のお寺と言え、まず地主さんである。私が生まれて育った家は、大巧寺という日蓮宗のお寺の地所だった。現在住んでいるのは、海蔵寺という臨済宗のお寺の地所である。わが家はこの寺の墓地に隣接していて、お彼岸とお盆

には線香のにおいが漂い、読経の音が聞こえる。ここに死ぬまで住むと思うので、要するに一生、お寺にお世話になっている。その意味ではお坊さんとは縁が切れない。

子どもの頃の遊び場と言えば、まずは川と海である。ここはだれの地所でもない。ただし年中遊べる場所ではない。水に入ると、冬は寒いからである。そこで普段は山のほうに行く。それもお寺の境内か、神社。近くに日蓮宗の妙本寺というお寺があって、ここから裏山に上ることが多かった。とくに春になると、まず足が向く。裏山に上りながら、虫を採る。妙本寺は立派なお寺で、寺域も広く、しかも山の中腹だから、虫採りにはもってこいだ。何度通ったか、わからない。ところがお寺の建物の中に入ったことはまったくない。門前の小僧だったけれど、縁なき衆生だったのである。

お寺の入り口には幼稚園があったから、そこに通えば、お坊さんとお近づきになれるかもしれない。でも私が通ったのはハリス記念幼稚園で、キリスト

教の幼稚園だった。小学校は私立で、中学高校はカトリック、敷地の中にイエズス会の修道院があったから、典型的な日本人の育ちであろう。鶴岡八幡宮の氏子で、お寺で遊んで、プロテスタントの幼稚園から公立の小学校、続いてカトリックの中高教育を受けた。残念ながら、イスラム教には縁がなかった。

おかげでいまでも宗教行事には抵抗がない。そういうものがあって当然だと思っっているからである。いわゆる新興宗教の集まりでも、あまり気にならない。頼まれれば、講演に行ったりする。その代わり、どれかの宗教を信仰して、堅く守るというとはしない。とくに神仏は一緒で、その意味では明治以前の習慣を引き継いでいるらしい。江戸時代の宗教政策では、他宗を排撃しないことが基本条件だったと聞く。キリスト教はその点では難があった。先祖がキリスト教徒でなかったことは明らかだから、仏壇やら神棚やらをどう考えるかという問題が生じる。以前からおけばいいだろうという、いい加減が

通用しないのである。

ここは日本人の宗教感覚で、とくに重要な点だと思う。宗教は統一しない方が無難である。そうでなくても、信仰は統一に向かいやすい。教義も統一に思っている。おそらく私の考え方が江戸時代のままなのであろう。

その意味では、踏み絵はじつに興味深い。要するに誰かが描いた絵なのだ、それを踏むか、踏まないか、それが生死の問題となる。そんな大げさに考えなくたって、板切れに描いた絵なんぞ、踏んだっていいだろう。それが私の感覚である。でも踏むべきものが天皇陛下の写真だったりすると、当然問題が生じる。これを私は政治問題と定義する。政治と宗教が絡んではいけない。板切れの方は、とりあえず政治ではなく、個人の気持ちの問題である。だから踏んでもいい。むしろ踏まなくてもいい。ただしそれで殺されるくらいなら、踏んだほうがましである。

（つづく）

人間探求 公開講座

「みんな違ってみんないい」

9月20日(木)



子どもと育ち総合研究所
主任研究員

穴戸 信子

今日の私のいただいたお題、「みんな違ってみんないい」。金子みすゞさんのお詩に、みんな違ってみんないいっていう言葉があるのですが、実はその前に何が

あるかっていうと、これは京都の街を歩いていて、多分目にしていたスローガンだと思ってるのですが、何年か前の大谷派の御遠忌テーマだとも聞いているのですけども「バラバラで一緒」という言葉がある。

「みんな違ってみんないい」はみんな違ってみんないいのだから、みんな違っていいのだよって言うている。だけどその前にみんなバラバラなのだけど、バラバラだけれど不安なのですよ。違いますか？バラバラだけれど不安じゃないですか。バラバラだけれど、でも一緒っていうところで安心感が起きてきます。じゃあ何が一緒なのか。皆さんと私は何が一緒か。今、ここに居るということ。ここってどこって言ったたら、地球の上だし、日本だし、そしてこの場所だし。それから一緒って他にどんなこと

があるか、そう私たち生活習慣がよく似ていますね。まず私たちは洋服を着ていますね。アフリカに行きますと、洋服を着ないという文化のところもあります。それから、食べ物も主食はご飯ですね。みんな一緒。よく似ている。生活習慣や文化というのは、土地や場所に根ざしているのです。それを共有していると私達は安心感を得るのです。それで、誰かと一緒にいることが心地良い、という安心感があるからこそ、バラバラでも安心して生きていける。

デコボコがあっても…

人間が持つっている力は、一人ひとりみんな違います。この事を「主体性 主体的」と呼んでいます。これは全ての人にありまして。障害がある方が無かるうが、人間には特性があるからです。人間は人間らしくあるための向上心という力を持っています。より良く、より育ちたいという力です。自らを向上させていく力、これは生まれ持っていると言われています。それは、死ぬまで続く向上心です。意欲です。よね。これが生まれつきなのは、赤ちゃんはお腹が空けば泣きますよね。主体的です。よね。自分の事しか言っていないから。生まれた時

はそれしかない。全ての一番大事な力を持つて生まれてきているのです。主張はするけれど、残念ながらそれを自分の力でする術はまだ持っていない。だから、その分だけお母さんが手助けをする。でも、段々と身体が育っていくとやがて自分一人で物を食べたりするようになる。サポートしなくても出来るようになっていく。その子の力をうまく使おうとする周りの大人が居てくれると、発達障害の子どもたちも確実に育ちます。ですが、周りと同じには育ちません。それは、持っている能力が違うからです。分量が違う。それから、デコボコがある。ですので、そこを何か埋めてあげること。誰かが手伝うことでそこが埋まることはありますが、そこを物凄く何かで叩き込んだら上がるかという、そんな子どもはあまり見たことがありません。ただし周りの理解があつて、この子これだけデコボコがあつてもこの辺を補えば大丈夫だと思ふことはあります。誰かが何かで補つてあげることによってその人の障害はうんと少なくなります。

信じるという仕事

そこで忘れてはいけない事は、一人ひとりの力はしっかりとあるということ。もうひとつは、対話的。僕は、私は、という力は大事です。しかし、それだけでは世の中やっていけません。三歳までは僕は、私は、の主体性の三年間です。主体性しかありません。小さい子は、押し付けではなく一緒に主体性を学んで行かなければなりません。障害のある子にのんびり確実に生活習慣を身に着けさせるのは私たちの仕事です。三歳以降の子どもたちは主体性が落ち着くと、貸して」と言ったら持つていくじゃなく、待つという対話が始まります。自分の主張も

あるが、相手も主張があることに気がつくのです。ここで社会が生まれます。自分では主張も言う、相手の主張も受け入れようとする。この二つが相まってくると、自己主張できる力とお互いに一緒にやっていくという力がついてくるので、いい社会ができます。どちらもが主張しなければ、ここであやふやになってしまふので結局いい社会は生まれません。これは障害がある方が無かるうが、その力がいつか出てくる。そして、実は発達障害の中にはその力がとても弱い子がいます。社会が苦手、怖い子もいます。その時には大人の仲立ちがいるという事です。どの部分が弱いのか。どの部分が不安なのか。どの部分がデコボコのボコなのかを知つておいてあげて、社会性だったらそこを補つてあげること。その子の主体性を活かしながら生きることが出来る。みんな違ってみんないい、だけど違いの種類を周りの大人がよく知つていけるということがとても大事です。主体性の無い対話はありません。自己主張と対話の力は決して相反するものではなくて、自己主張、主体性があるからこそ対話は出来る。これからは、その子は何が出来なのか、どんな力を持つているのかというところを見ようとする社会になっていきます。それは、発達障害の子どもたちにとっても良い社会だと言われます。子どもたち一人ひとりが自分の力を信じる、信じられるように私たちが手伝うということ。駄目な事ばかり並べる程、その人は自分の力を信じられなくなりまして。よね。あなただけの能力、存在を私は知っていますよと伝えたいと思います。そうやって、その人の力を周りにいる人は、信じるという仕事があると思います。

(文責・安居)

仏法あれこれ

さるべき業縁のもよおせば、
いかなるふるまいもすべし

(歎異抄)

最近、防犯カメラ、ドライブレコーダーで悪質な行動が映り逮捕されるケースが多いです。厳然たる証拠として隠しようがありません。私が子供のころは「仏さまが見てござる」と聞かされ悪いことは慎むようにとの

ことでした。しかし、本当に仏さまが見ているわけはありませんので、戒めのようなことかと思ひます。今は、ビデオカメラが仏さまの役を担っているのでしょうか。この防犯カメラが増えた背景には、一九九五年オウム真理教の地下鉄サリン事件以降に加速しているそうです。これほど悪い人、残虐な組織から身を守らなければなりません。いわゆる防犯意識です。これにより犯罪の検挙率も上がりましてが四六時中、自分の行動が監視され何か窮屈な感じがします。しかし、この防犯意識が高まる程、集団化し悪いとレッテルを貼られたならば、場合によって排除されることもあります。ここに、巻頭の親鸞聖人の言葉です。その内容は「人は、縁があれば、多くの人を殺します。また、縁がなければ、一人も殺しません。悪いから人

を殺すのではないのです。良いから殺さないのではないのです。」と言われまして。これは、犯罪を犯さない人も犯す可能性を持つていふこと。もちろん犯した罪は償わなければなりません。

このように防犯カメラは、行動を映し出しますが、心のありようまで映し出しません。行動でもって決めつけるのではなく、自分は犯してはいませんが、縁があれば「判りません」と自覚することが大事なことかと思ひます。仏さまは、行動はもとより、この自分の心を映し出す鏡を通して、他共に歩む道を教えて下さるよう思ひます。ですから私が聞いた「仏さまは見えてござる」は、相手を通して自分自身を省みる言葉とただかれるかと思ひます。

大野

退職のご挨拶



このたび、三月三十一日をもって旭川別院を退職させて頂きました。昭和五十七年から三十六年間、職責を勤め得ましたことは、皆様方の温かいご指導のおかげと感謝いたします。また公私にわたるご厚情に対しまして心より厚く御礼申し上げます。在職中たくさんのご縁を頂きました。このご縁を忘れずに今後の生活を送りたいと思ひます。皆様方のご健勝を念じ申し上げ退職のご挨拶とさせて頂きます。

横井 淑英 合掌

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川市の平成30年度保育所等整備事業によって、昨年4月から進められてきた園舎増改築工事は2月27日、旭川市子ども課の検査のあと園舎仮引渡しされ、早速3月5日在園児の生活がはじまりました。子供たちは口々に「ひろお〜い」「きれ〜い」と迎えに来た保護者に案内をしていました。旭川市内では初めての大型木造園舎。木のぬくもり、中庭から太陽の日差しが差し込むあたたかい園舎です。

工事中お遊戯室が取り壊されて延期していたお遊戯会を3月9日開催。新しくなったお遊戯室で保護者に見守られながら立派に元気に歌や踊り、オペレッタなどを披露してくれました。年長さんは、新園舎の生活が僅か12日間でしたが、3月19日に卒園式が執り行われ、元気よく園長先生から保育証書を受け取り、逞しくなった子供たちの姿に保護者や教職員涙するとともに、新一年生への新たな出発をお祝いしました。

4月からは、幼稚園型認定こども園として(幼稚園部定員60名、保育園部定員45名)新たな歩みをしていきます。



玄関



絵本の部屋



厨房



沐浴



保育室(4歳 ぱんだ)



保育室(5歳 きりん)



ホール



遊戯室

私達は中々自分で自分の姿に気がつきません。人から指摘されるまで自分の姿を知ることができないことが多いのです。そして人の欠点ばかりが目につき、悪口ばかり言ってお互いに傷つけあっていないでしようか。自分を振り返らない、自己中心のこころを「煩惱」といい、これが迷いや悩みの原因となっています。しかし、自分の醜い姿は、自分で受け入れられません。それどころか自分の物差しばかりを大事にして、今迷っているということに気づかないのです。仏法も同じことで、私のこととして耳に入ってきてません。

私自身お寺の法要や聞法会などで法話を聞き、ご縁に遇っているのにも関わらず、素直に仏さまの教えを聞けないのは、独り善がりの心が邪魔をするからです。仏法を他人事でしか聞かないのは、自分の中のはかりを一番に置いてあるからです。

浄土真宗は、法(みのり)を聞く事が大切だと教えられます。法を聞くことによって、私達は自らの恥ずかしい姿を知ると同時に、このような私に慈愛を注ぎ、救わずにはおれないと願っている阿彌陀如来の存在を知られるからです。私の頑なな心を壊して、素直に仏さまの言葉が聞けるようになるには、何度も繰り返し教えを聞いていかねばなりません。そうしてこの煩惱だらけの私も、阿彌陀如来の大きな慈悲の中に抱かれていると気づいた時、素直に「南無阿彌陀仏」とお念仏が出るのではないのでしょうか。慌ただしい日常生活の中にあっても努めて御教えに触れ、自分の姿をみつめたいものです。

小宮山

うーどんげ